

崎田委員からのご質問

2050年に向けて温暖化対策の要求が厳しくなっていく時代の中で、全面的な燃料の転換について、どのように考えているのか

ご回答

セメント協会では、第三者による2050年時点での需要予測等を入れた「脱炭素社会を目指すセメント産業の長期ビジョン」を本年3月に公表いたしました。

<http://www.jcassoc.or.jp/cement/1jpn/200326.html>

この長期ビジョンは、わが国の「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」において掲げた長期目標の実現に貢献するため、2050年、更には、その先という不確実な将来を展望し、現時点において、目指すべき方向性を示すビジョンとして作成したものです。

本長期ビジョンではその方向性の一つとして、使用エネルギーの低炭素化についても触れており、その中では、セメント製造に用いる熱エネルギーだけでなく、「**自家発電に用いるエネルギーについても炭素排出係数の小さいエネルギーへの転換も併せて検討していく**」と記載しております。

ご参考になれば幸いです。

脱炭素社会を目指すセメント産業の長期ビジョン(概要)

1. 本ビジョン策定経緯及び狙い

セメント産業は、これまで、主として省エネルギーを通じて、エネルギー由来の二酸化炭素排出削減に努めてきた。我が国の「長期戦略」は、2050年までに80%の温室効果ガスを削減する長期目標を設定するとともに、最終到達点として「脱炭素社会※」の実現を目指している。本ビジョンは、セメント産業が、この長期戦略の実現に貢献するため、2050年、更には、その先という不確実な将来を展望し、現時点において、目指すべき方向性を示すビジョンである。

※今世紀後半に温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と吸収源による除去量との間の均衡(世界全体でのカーボンニュートラル)を達成すること

2. 広義の国内需要量

2050年における広義の国内需要量(セメントの官需、民需、セメント系固化材)は3,400万t～4,200万t程度と予測されるが、生産量は、輸出と輸入が加わるため、更に幅をもって捉えるべきである。

3. セメント産業の果たすべき役割

広義の国内需要量の減少が予測されているが、セメント産業は将来的にも次のような役割を果たしていく。
 [基礎素材の供給者]、[循環型社会形成への貢献]、[地域経済への貢献]、[災害廃棄物処理への貢献]

4. 目指すべき対策の方向と克服すべき課題

目指すべき対策の多くは、克服すべき困難な課題を抱えており、その実現には「非連続なイノベーション」が不可欠であるとともに、建設業界をはじめとしたステークホルダーの理解と協力が必要である。

- ・ クリンカ比率の低減
- ・ 投入原料の低炭素化
- ・ 省エネルギーの推進
- ・ 鉱化剤使用等による焼成温度低減
- ・ **使用エネルギーの低炭素化**
- ・ 低炭素型新材料の開発
- ・ 二酸化炭素回収・利用・貯留(CCUS)への取り組み
- ・ 供用中の構造物及び解体コンクリートによる二酸化炭素の固定(吸収)
- ・ コンクリート舗装の推進による重量車の燃費向上に伴う二酸化炭素低減

本文より抜粋

- ・ 熱エネルギー代替廃棄物の活用
- ・ 自家発電に用いるエネルギーの炭素排出係数の小さいエネルギーへの転換への検討